

— 住学協同への実験 —

筑豊ゼミ研究会報 8月号

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター・筑豊ゼミ研究会報第 13 号 2014 年 8 月 10 日

8 月例会は 8 月 20 日(水)午後 7 時～9 時

[ひきこもり研究会：7 月 21 日(木)午後 7 時～8 時 45 分 飯塚市民交流プラザ]

受付(独楽研究会)は視聴覚教室(4 号館 1 階)で行います。インフォメーション(連絡事項)等を、最初に行いますので、受付後午後 7 時迄視聴覚教室に待機してください。

市民遺産研究会(4号館1階、4103 視聴覚教室)

- ・モデルコースの検討(文化遺産、自然遺産を含め興味あるコースやエリア別のコース)
- ・資料作成の内容を考える。(見学に必要な時間を考慮して、文章や写真の挿入)
- ・コースの実踏調査について考える。

独楽研究会(4号館4階、4401 教室)

1. どのように回したら長く回るか、回し方について話し合い
2. 回す人によって回転がどのように変化するのか調べる。
3. ビジネスとして考えるには

ひきこもり研究会

(日時:8 月 28 日(木) 午後 7 時より、場所:飯塚市民交流プラザ)

- ・ひきこもりの若者の親の会 NPO 楠会より お母さんが来られお話をされます。
- ・お母さんの平均年齢は70才、若者の平均年齢は32才。
- ・不登校・ひきこもりの平均年数は9年あまり、だ明かりがみえません。
- ・生のお話をさせていただきます。

情報発信/データデザイン研究会(午後 5 時 3 号館 3 階 3304-B:情報工房)

- ・筑豊地域づくりセンターのホームページは、レイアウトを決定したのちに詳細なデザイン作業に入る予定です。
- ・ホームページのデザインには、近畿大学産業理工学部内の美術部に協力していただく予定です。

(前日までに pdd 研 chikuzemi.pdd@gmail.com 宛に了解をとって頂ければ、参加できます。)

筑豊ゼミ・研究会報告

市民遺産研究会 7月定例研究会

会長 白神 精一

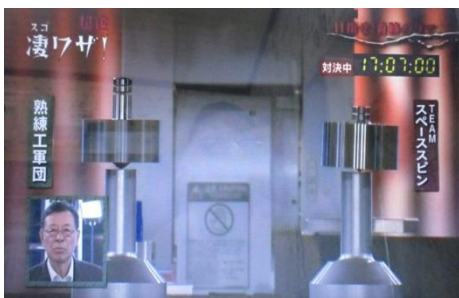
- ・出席者が少なかったが宿題の「炭鉱遺構を入れた観光ポイント」(モデルコース)3案を紹介
- ・報告者の居住する地域より筑豊富士ポタ山の遠景を見た後に地元の遺産関連史跡や施設を時間に余裕を持たせたルートで回り、最後に飯塚市歴史資料館で理解を深めるコース。
- ・研究エリア内で新しい事柄(森の木琴・広島原爆投下の火)の施設を回るコース。
- ・筑豊一円の主たる遺構や文化遺産を含めたコースなどを検討したが全会員で再度検討するようにした。

どのエリアにおいても炭鉱の遺構は少なくなって、道路・住宅等ができ当時を知る人は少なく、難しい研究であることは間違いないが、今ある遺構を求めて角度を変えて調べてゆくことを確認。

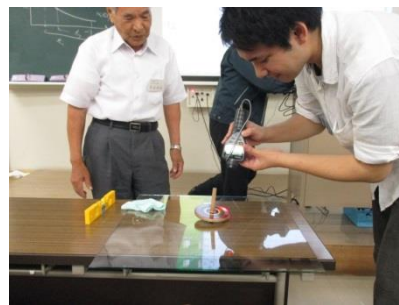
独楽研究会 7月定例研究会

会長 笹原 泰史

- 1) NHKテレビで放映された「超絶 凄ワザ」目指せ！奇跡のコマを見てコマの形状やバランスのとり方、空気抵抗等について話し合う。
- 2) 6月定例会に右回転と左回転について話し合いでデーターをもっと取ればとの事でしたので吉田さんが厚めの独楽と薄めの独楽にてデーターをとったのを説明の後、松崎先生より厚めの独楽と薄めの独楽の回転時間の違いの説明をしていただきました。
- 3) 花元顧問が回した時に回転がどのように異なるかデーターを取る。



NHKの独楽対決を鑑賞



花元顧問が回して吉田さんが測定

ひきこもり研究会 7月定例研究会

会長 野田 隆喜

参加者 10名(会員4名 青少年関係者4名 一般2名)

講師 現在32才 小学5年より17才まで不登校・ひきこもりを経験 社会参加に悪戦苦闘中の山田知弘さんより

1. ひきこもりになったきっかけ
2. ひきこもり中の生活
3. ひきこもりをやめるきっかけ
4. 社会参加の苦勞
5. 支援・理解される方への助言等、多岐にわたり話がありました。

参加者から主な質問

1. 親子関係への質問があり

→ 後で知りましたが当時は父は無関心にみえた(実は色々とあちこちに足を運んでいた)。

また、申し訳なくて意識して距離をおいていた。主に母が窓口でした。特にストレス溜まると当たっていました。

→ 母から「そんなに殴りたいならしっかり殴りなさい」と言われて止められました。

2. 社会参加で何が大変ですか

→ ひきこもり期間が長くなればなるほど 気力・体力・知力が薄く、その力をつける事が大変。

3. 支援するにおいて大切な事は

→ 同じ視線で相手をして欲しい。あまり「可哀想」的な姿勢は辛いです。また、ひきこもりは「治った」ということはありません。いつでも「ひきこまれる環境」を持ちつつ社会参加を理解いただければ

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研) 7月定例研究会

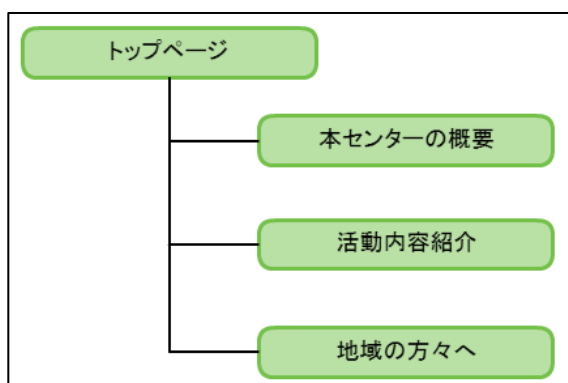
書記 丸林恵

情報発信/データデザイン研究会(pdd 研)は、近畿大学産業理工学部の学生が、ホームページなどの情報発信媒体を通じて筑豊地域の活性化を図る目的として平成 26 年に作られた組織です。主な研究内容は、どうすれば筑豊の人々に興味を持ってもらえるようなホームページを作れるか、どうすればより効果的に筑豊のいい所を知ってもらえるか、それらを学生がこれまでに得た知識を活用し、実際に形にすることをしています。

[7月の活動内容]

pdd 研は毎週水曜日にウェブサイト制作のための会議を行っています。今月は地域づくりセンターのホームページのコンセプト構築、ウェブサイト(ホームページ)構造の決定を行いました。(コンセプトとは、ホームページを構築する目的を達成するために、ホームページ制作に置いて最初に決めなければいけない方向性のことです)

コンセプト構築の際に、菊川理事長に筑豊地域づくりセンターについてお伺いしました。



コンセプト構築終了後、筑豊地域づくりセンターのホームページの構造を左図のように決定しました。ホームページに掲載する主要な情報を組織化し、優先度によってページの階層を決定しました。左図には省略しましたが、各ページの詳細な内容、更新情報の知らせ方なども話し合いました。

情報交差点

筑豊での話題やイベント情報を掲載します。予告や結果報告等、皆様からの情報を待っています。

送付先 e-mail : chair@chikuzemi.com(運営委員長) : sec@chikuzemi.com(事務局長)

URL: <http://www.chikuzemi.com/>(筑豊ゼミ)

<http://www.chikuhou-jugaku.org/> (NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター)

産業遺産国際会議 報告

(7月14日・15日、ホテルオークラ東京)

第61回筑豊近代遺産研究会(7/25)にて、「産業遺産国際会議」に出席・講演(注1)された安蘇龍生田川市立石炭・歴史博物館長から、来年には「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」(注2)が世界遺産として登録される可能性が高いことが報告されました。

世界記憶遺産として登録された山本作兵衛コレクションが収蔵されている、田川市は、新たな視点から注目されることも期待されますが、嘉飯桂地区や直鞍地区の石炭産業遺産は逆に、世界遺産という流れ・ブームから取り残される恐れがあります。

“筑豊炭田有っての旧官営八幡製鐵所”です。残された一年弱の間に、旧官営八幡製鐵所の遺産につながる“ヘリテージツーリズムのルートと物語”によって、世界遺産登録を新たな飛躍のチャンスとすることができます。筑豊近代遺産研究会では、筑豊各地の博物館・記念館・資料館と連携した活動を強化することで、新たなステップへ進みたいと考えています。

そこで、筑豊ゼミ、中でも市民遺産研究会には、これまで調査・研究してきた蓄積を生かして、ルートと物語を提案することが求められています。その際、物としての産業遺産だけでは無く、近代百年の石炭産業に大きな影響を受けている、筑豊に根付いた有形・無形の文化遺産や自然遺産と石炭産業遺産を一体としてとらえたルートと物語を考える必要があるでしょう。

今年度後半の筑豊ゼミ研究会活動に大いに期待したいと思います。

なお、大牟田・荒尾エリアの三池炭鉱関連遺産や佐賀市の三重津海軍所跡などの他、旧伊藤伝右衛門邸とも深い繋がりのある東峰村の宝珠山炭坑遺産、日田市の久兵衛茶屋や荒尾市の宮崎兄弟資料館なども視野に入れると面白いルートができるかも知れません。

(注1) 安蘇館長は、産業遺産国際会議(<http://www.congre.co.jp/ICIH2014/>)にて“日本の石炭産業の記憶:ユネスコ記憶遺産 山本作兵衛コレクション”と題して講演されています。なお、本年6月には、長弘先生の後を受けて、筑豊近代遺産研究会長に就任されています。

(注2) 福岡県内の遺産は、旧官営八幡製鐵所関連の旧本事務所、修繕工場、旧鍛冶工場、遠賀川水源地ポンプ室と三池炭鉱関連の宮原坑施設、万田坑施設、専用鉄道敷、三池、三角西(旧)港施設があります。

NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター

地域づくりセミナー

「地域連携」 大学は地域とどう向き合うのか

新たな視点からの「地域連携」が求められている今、近畿大学では、あすの筑豊を展望する研究を目指して、今秋、「地域連携研究センター」の設立が予定されています。

そこで、地域づくりセンターでは、その専門分野から見える「筑豊の今」と「地域連携」の課題について具体的に語って頂く下記の「地域づくりセミナー」を企画いたしました。

記

第1回 9月26日(金)

18:00～18:25 荒川 剛 学部長 (NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター会長)

地域連携研究センターの設立と地域支援

18:30～19:30 井原 徹 建築・デザイン学科 教授

地域未利用建築資源の活用とまちづくり

第2回 10月3日(金)

18:00～19:00 日高 健 経営ビジネス学科 教授

再生可能エネルギーと地域活性化をどうつなげるか

第3回 10月24日(金)

18:00～19:00 依田浩敏 建築・デザイン学科 教授

筑豊における環境に配慮したまちづくり

第4回 11月7日(金)

18:00～19:00 坂田裕輔 経営ビジネス学科 教授

地域活性化プロジェクトの社会・経済的影響について

場所:飯塚市市民交流プラザ(アイタウン2F)

主催:NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター

問い合わせ:chair@chikuzemi.com (090-9485-5985) 菊川清(第27期筑豊ゼミ運営委員長)

又は、item0323riri@yahoo.co.jp(090-1087-4197) 藤木哲雄(地域づくりセンター事務局長)

以上

発行:NPO 法人住学協同機構筑豊地域づくりセンター 第27期筑豊ゼミ

責任者:第27期筑豊ゼミ運営委員長 菊川 清

編集者:第27期筑豊ゼミ運営委員会事務局長 主税 洋三

住所:〒820-8555 飯塚市柏の森 11-6 近畿大学産業理工学部気付 第27期筑豊ゼミ

連絡先:090-9485-5985 (運営委員長 菊川) 090-8624-2886 (事務局長 主税)

e-mail: chair@chikuzemi.com (運営委員長) sec@chikuzemi.com (事務局長)